

町 政 懇 談 会

2026《秋期》

《開催日程・会場》

- ◆本 庄 地 区 11 月 1 日(日) 13:30～本庄地区館
- ◆日 笠 地 区 11 月 3 日(火) 10:00～日笠地区館
- ◆藤 野 地 区 11 月 3 日(火) 13:30～藤野会館
- ◆山田・塩田地区 11 月 14 日(土) 10:00～学び館「サエスタ」
- ◆佐伯・昭和地区 11 月 14 日(土) 13:30～学び館「サエスタ」
- ◆石 生 地 区 11 月 28 日(土) 10:00～石生地区館
- ◆和 気 地 区 11 月 28 日(土) 13:30～和気地区館

和 気 町

1.1 期目（4 年間）の振り返り

安全・安心で公平・公正な「人にやさしいまちづくり」を推進した。

人口減少、少子高齢化、地域コミュニティの希薄化という課題に対し、町政懇談会の対話を通じて豊かな自然、歴史、住民の郷土愛や情熱という「大きな力」を実感した。

2. 今年度の主要事業と今後の方向性

（1）人口減少への挑戦（持続可能なまちづくり）

「近き者説（よろこ）べば、遠き者来る」（孔子）：この町で豊かさを感じ、生きがいをもって暮らせることが移住・定住者の増加に繋がる。若者世代が暮らし、働くことに誇りと実益を感じられることが重要となる。

（2）関係人口の創出

和気町ファンクラブ（約 2,700 人）の運営や、移住・定住・二拠点居住など多様な関わりを促進し、「住み心地の良さ」を追求した「和気あいあい」のまちを目指す。

（3）和気駅周辺の活性化

大学との連携：山陽学園大学の授業を通じた若者ニーズの掘り起こしや IPU 環太平洋大学による「エンターワケ」を活用した夜市を開催した。

地域プロジェクトマネージャー（総務省）の採用による専任での立案・計画・実施する。若者の集いの場としてユースセンターを設立する。

（4）LINE を活用した「和気町スマホ役場」

「和気町公式 LINE」を開設し、24 時間 365 日場所を問わず申請手続きや施設予約などの行政手続きが可能となった。職員自らがシステムを構築したため、導入費用が不要（使用料のみ）で実現することができた。

（5）物価高騰対策給付金

重点支援地方交付金を活用し、町民 1 人あたり 1 万円を支給した。（本年 2 月 1 日時点の住民基本台帳登録者）。マイナンバーカードの公金受取口座を活用したプッシュ型配信などにより迅速な給付を実施した。

（6）産業振興施設整備

過疎化が進む佐伯地域に、日用品や有機農産物の販売、観光情報発信、イベント広場、キッチンカー配置、サイクルポート、災害時避難所機能を備える施設を整備する。

棚田テラスや緑地空間、トラック市・週末マルシェ（日曜市）の開催など、賑わいと日常の利便性の向上を図る。

（7）小中学校の体育館への空調設備設置

児童生徒の充実した教育環境の整備と、有事の際の指定避難所としての機能強化のため、今年度は本荘小学校・和気小学校に空調設備を設置する（佐伯中体育館は設計実施）。順次全小中学校へ拡大していく。

（8）和気浄化センター改築更新工事

ストックマネジメント計画に沿い、受変電設備や水処理施設、自家発電施設等を対象とした改築更新工事を今年度から 3 カ年かけて実施し、安定稼働と適正な水処理を確保する。

（９）和気鵜飼谷温泉改修工事完成（９月９日竣工式）

太陽光発電設備の導入により年間約 2,000 万円の電気代削減を見込むほか、省エネ設備の導入や BMS（電力自動一斉管理）による CO2・光熱費削減を推進する。中庭及び露天風呂の庭園ライトアップも開始する。

（１０）町制施行 20 周年記念事業

- ・記念式典（２月 28 日）
功労者表彰、講演会（和気清麻呂公と日本の転機）を実施した。
- ・NHK ラジオ「真打ち競演」公開収録（６月 20 日）
町内外から 404 名が来場。落語や漫才など多彩な芸が会場を盛り上げた。
- ・大相撲秋巡業和気場所（10 月 22 日）
横綱・大関を含む約 130 名の力士が参加し、記念事業の最大イベントとなった。

3. 今後の課題（中長期的課題）

（１）和気駅へのエレベーター設置

現在、概略設計が完成し JR 西日本が国庫補助を申請している。
来年度（2027 年度）に詳細設計を行い、2030 年度よりエレベーター設置工事を開始予定している。（同時に駅待合室の改修も実施）

（２）佐伯地域の小中学校のあり方について

小中一貫校（佐伯学園）として来年 4 月からスタートする。
当面は現在の校舎で施設分離型の運営をするが、将来的には施設一体型の義務教育学校を目指す。

（３）和気駅から旧大國家住宅にかけての文化ゾーン化

和気駅～中央公民館（図書館）～旧大國家住宅を結ぶエリアで、中央公民館＆図書館の複合施設化や旧大國邸の活用（見学・喫茶・イベント等）を進め、歩いて楽しい「ウォーカブルな街」を目指す。

4. 終わりに

本年は町制施行 20 周年の節目の年となり、記念事業を通じて町民の皆様と喜びを分かち合い、和気町の新たな活力を実感する一年となりました。

町制施行 20 周年の節目を越え、2050 年の人口予測（8,338 人）を見据えながら、単に数値を追うのではなく「この町で豊かさを感じられる環境」づくりを通じて移住・定住を促進します。住民の皆様の郷土愛と情熱を原動力に、若者が誇りと実益を持てる持続可能なまちを共に創り上げてまいります。引き続き温かいご支援をお願い申し上げます。